

導入事例 Case Study

デスクトップ仮想化をクラウドサービスで実現 PC運用を効率化し、ワークスタイル変革にも貢献



簡易食品容器メーカーである株式会社エフピコ(以下、エフピコ)。同社は、グループ全体で約2,000台にも上るPCとファイルサーバの運用を効率化するため、VDI(Virtual Desktop Infrastructure)をクラウドサービスとして利用できる「ホワイトクラウド デスクトップサービス Viewタイプ」(以下、デスクトップサービス)、「ホワイトクラウド ファイルサーバ」を導入しました。リソースを集約し統合管理を行えるだけでなく、サーバを自社で持たずに済むことから運用管理負荷を大幅に軽減。また、スマートデバイスからも常に同じデスクトップ環境へアクセスできるので、場所や端末に捉われないワークスタイルの確立にもつながっています。



課題と効果



課題 限られた人員で各拠点に分散した約2,000台のPCおよびファイルサーバを運用しなければならず、情報システム部の業務負荷が増大していました。

効果 「デスクトップサービス」によりPCの集中管理を実現するとともに、ファイルサーバの管理を「ホワイトクラウド ファイルサーバ」に移行。OSやアプリケーションの更新、パッチの適用を一括で行えるうえ、クラウドサービスなのでインフラも自社で運用する必要はありません。負荷が軽減され、本業に専念できるようになりました。



課題 Windows XPのサポート終了に備え、業務用のPC環境を最新OSに更新する必要がありました。

効果 「デスクトップサービス」はユーザのデスクトップ環境をサーバ側で集中管理する仕組み。Windows 7への切り替えを一斉に行うことができ、OSやアプリケーションの更新、セキュリティパッチの適用なども一括して行えます。



課題 営業担当者を中心にタブレット端末を支給していましたが、そのメリットを十分に活用できていませんでした。

効果 タブレット端末でも自分のデスクトップ環境を利用できるようになり、必要な資料の入手、見積や発注処理もその場で行えるようになりました。ワークスタイル変革の「起爆剤」として期待が高まっています。

導入の背景 ●●●●● 戦略的なIT活用を進めるため運用管理負荷の軽減を目指す

スーパーマーケットや食料品店で使用される業務用食品トレーをはじめ、簡易食品容器の製造・販売を行うエフピコ。顧客ニーズを捉えた製品は高い評価を得ています。これらのビジネスをITの面から支えるのが同社の情報システム部門です。生産管理や物流管理などの基幹システムはもちろん、商品開発を支えるシステム基盤などを企画。同社の成長に貢献してきました。しかし近年、同部門ではある課題に直面していました。それが運用管理負荷の問題です。「年々高まる運用管理負荷を前に、本来行うべき企

画業務にリソースを割くことが難しくなっていました」と同社の井上 隆仁氏は述べます。さらに追い打ちをかけたのがWindows XPのサポート終了です。同社は、グループ全体で約2,000台のPCを利用しているうえ、それらは全国80拠点に点在しています。「PCを最新のOSに移行させるには、1台ずつにOSの再インストール、セキュリティ設定、データ移行といった作業を行わなければなりません。現在の人員で対応するのは現実的ではなく、何らかの対策が必要でした」と同社の橋本 祐希氏は言います。

選択のポイント ●●● PCの集中管理が可能なVDIをクラウドサービスとして利用可能

これらの問題を解決するため、同社が選択したのが、ソフトバンクテレコムが提供する「デスクトップサービス」です。これは、デスクトップを仮想化するVDIをクラウドサービスとして利用できるもの。通常は自社に設置したサーバ上に仮想PCを構築しデスクトップ環境の集約を図りますが、「デスクトップサービス」は、ソフトバンクテレコムのデータセンターをインフラとして利用します。「VDIによって、PCの集中管理が可能になるうえ、『デスクトップサービス』なら、自社でシステムを構築し、運用する必要もありません」と井上氏は選定の理由を述べます。

移行検証が容易になる点も採用を後押ししました。「PCを移行する際には、当然既存システムが新しい環境でも利用できるか検証が必要です。その点、『デスクトップサービス』には検証用のテスト環境が整っており、VDI環境でのWindows 7の検証作業を本番開始前に念入りに行うことが可能です」と同社の前田 浩二氏は続けます。また「デスクトップサービス」と「ホワイトクラウド ファイルサーバ」は、ソフトバンクテレコムが自社で利用しているVDIや、ファイルサーバと同じインフラを使用。「安定稼働の実績があるサービスなら、安心して利用できます」と橋本氏は言います。

導入の概要と効果 ●●●▶ PC・ファイルサーバの一括管理による効率化に加え、柔軟な働き方も実現

同社は、約1,400台のPCを「デスクトップサービス」に、社内で管理していたファイルサーバを「ホワイトクラウド ファイルサーバ」にそれぞれ移行し、すでに利用を開始しています。同時にOSをWindows XPからWindows 7に移行し、VDIのレスポンスや安全性を考慮して、ソフトバンクテレコムの開域ネットワークサービス「SmartVPN」を導入しました。

その結果、運用管理負荷を大幅に軽減。「OSやアプリケーションの更新、新規アプリケーションの展開、セキュリティパッチの適用、ファイル容量の割当などを一括して行えるようになっていきます。また、新しいPCを用意しなければならない場合も、イメージをコピーするだけで展開可能です」と前田氏。PCに不具合が発生した場合も、OSイメージやアプリケーション、ファイルデータをはじめとした各種データはクラウド上にあるため、ほかの端末から接続し直すだけですぐに業

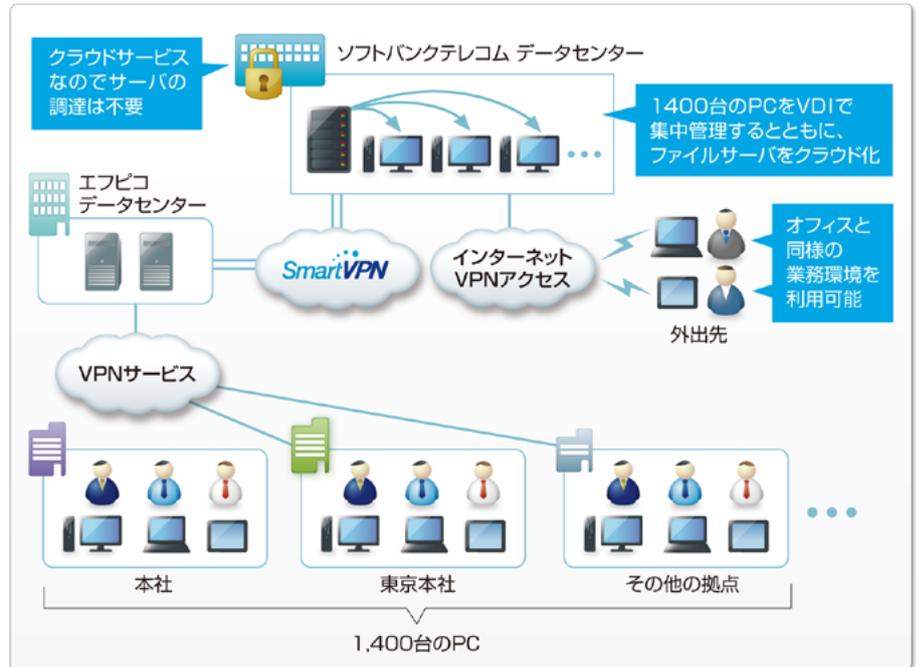
務を再開できます。以前のように代替機の用意や、必要なデータの移行といった作業は不要となったうえ、BCP強化にもつながっています。

さらに「デスクトップサービス」はワークスタイルの変革にもつながっています。「デスクトップサービス」はマルチデバイス対応で、PCだけでなくスマートデバイスからもアクセスすることが可能。営業担当者を中心に配布していたタブレット端末の活用がさらに進展したのです。

「いつでも・どこからでも、オフィスと同様の業務環境を利用できるため、外出中にも見積りや発注処理をその場で迅速に行っているようです。データが端末に残らないため、盗難や紛失といったトラブルがあったとしても情報漏えいの心配がありません」と井上氏は語ります。

導入したサービス

「デスクトップサービス」、「ホワイトクラウド ファイルサーバ」は、ソフトバンクテレコムのデータセンターで運用しているVDI・ファイルサーバリソースをサービスとして利用できるクラウドサービス。お客様は自社でサーバを構築・管理する必要がなく、すぐに導入が可能です。サーバ上に複数の仮想PCを構築し、集中管理を行えるため、PCの運用管理負荷を大幅に削減できます。また、端末側にはOSやアプリケーション、データなどが残らず、クラウド環境にデータを集中管理するため情報漏えいリスクが極めて低く、社外の端末からでも安全に利用できます。こうした特長から、現在、ワークスタイル変革やBCPのためのソリューションとしても注目を集めています。



今後の展開 ●●●●●▶ 導入範囲を拡大し、PC環境のさらなる最適化を目指す

同社は、まだ完了していない一部のグループ会社などへの「デスクトップサービス Viewタイプ」の展開を計画しています。あわせて、現在導入している「SmartVPN」の適用範囲も拡大する考えです。「支社・営業所を含む全国の拠点をすべてつなぎ、全社的にPC環境の最適化を図っていきます」(橋本氏)。

また、運用管理負荷の軽減に成功した情報システム部のメンバーは

あらためてシステム企画などに注力する構えです。

IT予算の多くが運用管理に割かれてしまっているという企業は少なくありませんが、エフピコでは「デスクトップサービス」を導入することで、PC環境の運用管理負荷軽減に成功しました。「今後も運用管理の最適化範囲をさらに拡大し、ITの戦略的な活用を加速させます」と井上氏は最後に強い意気込みを語りました。

株式会社エフピコ

本社：広島県福山市曙町1-12-15
設立：1962年7月24日
資本金：131億5,062万5,630円
売上高：1,611億2,100万円(2014年3月期)
従業員数：712名(エフピコグループ：3,977名 2013年3月31日現在)
概要：ポリスチレンペーパーおよびその他の合成樹脂製簡易食品容器の製造・販売を手がけ、最近では家庭向けの電子レンジ対応型簡易容器「PPSA」シリーズの販売を開始した。また、トレーリサイクルを先駆けて実践してきた企業としても知られ、使用済み容器を回収・再生した「エコトレー」「エコPET」を提供するなど環境対策にも積極的に取り組む。

URL：<http://www.fpc.jp/>



※パンフレット記載内容は、2015年2月現在のものです。